

■ 交通案内



■ お問い合わせ

- 長岡市**
- 長岡市観光企画課 ☎0258 (39) 2344
<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/>
 - (一社)長岡観光コンベンション協会 ☎0258 (32) 1187 (※)
<https://nagaoka-navi.or.jp/>
 - 長岡駅観光案内所 ☎0258 (36) 3520
 - 長岡市ホテル旅館組合 ☎0258 (29) 7654
- 《タクシー会社(五十音順)》
- 旭タクシー ☎0258 (27) 5050
 - (株)カンコー ☎0258 (35) 0035
 - 相互タクシー ☎0258 (34) 2525
 - 中越交通(株) ☎0258 (35) 1239
 - 越後交通本社 ☎0258 (29) 1111
 - つばめタクシー ☎0258 (86) 0226
 - 長岡タクシー ☎0258 (35) 1717
 - 三越タクシー ☎0258 (35) 6161
- 《バス会社》
- 越後交通本社 ☎0258 (29) 1111

- 小千谷市**
- 小千谷市にぎわい交流課 ☎0258 (83) 3512
<https://www.city.ojiya.niigata.jp/>
 - 小千谷観光協会 ☎0258 (83) 3512
<https://www.ojiyakanko.com>

- 会津若松市**
- 会津若松市観光課 ☎0242 (39) 1251
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>
 - 会津若松観光ビューロー(鶴ヶ城管理事務所) ☎0242 (27) 4005 (※)
<http://www.tsurugajo.com/>
 - 会津若松観光ビューロー(支所) ☎0242 (23) 8000
<https://www.aizukanko.com/>

- 只見町**
- 只見町交流推進課 ☎0241 (82) 5240
<https://www.town.tadami.lg.jp/>
 - 只見町インフォメーションセンター ☎0241 (82) 5250
<https://www.tadami-net.com/>

(※)観光ボランティアガイド窓口

北越戊辰戦争と「峠」の世界をたどる。

越後長岡

ゆかりの地 戊辰・河井継之助
ガイドブック

越後長岡
ゆかりの地
ガイドブック

時代が動いた1868年。
北越戊辰戦争を巡る旅へ。

幕末を駆け抜けた、河井継之助の足跡をたどる。

長岡市・小千谷市・只見町・会津若松市地図 — 1

越後の風雲児「河井継之助」と北越戊辰戦争

ドキュメント・継之助 — 2

北越戊辰戦争・前編 — 4

中編 — 6

後編 — 8

戦後の長岡藩 — 9

継之助に思いを馳せ、戊辰史跡をたどる。

新政府軍が退いた、北越最大の激戦地 **長岡市** — 10

平和の想い届かず、会談決裂の地 **小千谷市** — 18

時代の大きな狭間に激動した地 **会津若松市** — 20

八十里越に時代模様を見届けた地 **只見町** — 22

「河井継之助の旅」モデルコース
長岡市を起点に、幕末維新をひもとく。 — 24

保存版

行きたい所、知りたい情報がひと目でわかる。

地域別はもちろん、史跡名でも検索できる索引をご用意しました。また、このページは「しおり」としてもご利用いただけます。

索引 (五十音順)

■あ

- 会津まつり — 20
- 会津武家屋敷 — 20
- 朝日山古戦場 — 19
- 維新の暁鐘(西福寺) — 13
- 伊東道右衛門の碑 — 15
- 榎峠古戦場パーク — 13

■か

- 開戦決意の地記念碑(前島神社) — 13
- 片貝まつり(浅原神社祭礼) — 18
- 叶津番所跡 — 23
- 河井継之助記念館(長岡) — 12
- 河井継之助記念館(只見) — 23
- 河井継之助の墓(医王寺) — 23
- 河井継之助の墓(栄涼寺) — 12
- 河井継之助の碑 — 15
- 河井継之助の埋骨遺蹟(建福寺) — 21
- 米百俵の群像 — 17
- 米百俵の碑 — 17
- 米百俵まつり — 10

■さ

- 阪之上小学校・伝統館 — 16
- 慈眼寺 — 19
- 司馬遼太郎「峠」の碑 — 19
- 西軍(新政府軍)上陸の地 — 14

■た

- 大黒古戦場パーク — 14
- 只見ふるさと雪まつり — 22
- 長興寺 — 17
- 鶴ヶ城(若松城) — 21

■な

- 長岡市郷土史料館 — 16
- 長岡市立中央図書館 — 16
- 長岡城址(二の丸跡) — 12
- 長岡藩士の墓、長岡藩士殉節の碑(本光寺) — 21
- 長岡藩主 牧野家史料館 — 17
- 長岡藩本陣跡(光福寺) — 13
- 長岡まつり — 10
- 日光社 — 15

■は

- 八丁沖古戦場パーク — 14
- 普濟寺 — 16
- 船岡公園 — 18
- 北越戊辰戦争伝承館 — 14

■ま

- 三石神社 — 22

■や

- 山本五十六記念館 — 10
- 悠久山招魂社 — 15
- 雪峠の碑 — 19

しおり用折り込み線

幕末を駆け抜けた、

慶応4年(1868)正月。鳥羽伏見の戦いで火蓋を切った戊辰戦争。継之助はこの戦争を避けるため、新政府軍との小千谷会談に臨むが交渉は決裂。やむを得ず参戦に踏み切るが…。長岡より小千谷、会津若松、只見へ。幕末を動かした河井継之助の足跡を訪ねてみる。



小山正太郎筆
河井継之助肖像画
(長岡市郷土史料館展示作品)



河井継之助の墓 河井継之助記念館(栄涼寺)

8月3日 吉ヶ平発

8月4日 八十里越(山中泊)

只見町 22p

8月5日 只見村着



河井継之助記念館(只見町)

河井継之助の足跡をたどる。

- 北越戊辰戦争
- 会津戦争
- 河井継之助の負傷後の経路



5. 5月19日 長岡城落城
10. 7月29日 長岡城落城

1868年5月2日 慈眼寺にて新政府軍の岩村精一郎と会談決裂

1. 閏4月26日 芋坂・雪峠の戦い



小千谷会談の間(慈眼寺)

6. 6月2日 今町の戦い

7. 6月6日~7月14日 福井・大黒周辺の戦い

8. 6月8日 森立峠の戦い

3. 5月10~11日 榎峠の戦い(長岡藩の開戦)

4. 5月11~18日 朝日山の戦い

2. 閏4月27日 小出島の戦い

9. 7月24日~25日 八町沖の戦い 長岡城奪還

8月25日 涙橋の戦い

8月29日 長命寺の戦い

9月5日 住吉川原の戦い

9月8日 飯寺の戦い

9月15~17日 城南の戦い

9月2日~4日 大内峠の戦い

8月22日 戸ノ口原の戦い

1868年8月23日~9月22日 鶴ヶ城籠城戦

8月21日 母成峠の戦い

猪苗代湖

至大阪 至東京 至東京



ドキュメント・継之助

藩政改革への道「諸国遊学」

異彩を放った少年時代

文政10年(1827)1月1日、継之助は長岡藩の中堅藩士、河井代右衛門秋紀の長男として城下に生まれた。

年少の頃から利かん気が強く、理不尽な年長者の脅しにも決して屈しないことから、母の貞は密かに頼もしかったという。

一方で父親は、藩士としての将来を案じ、半ば強制して文武の手習いに通わせる。しかし継之助は、「馬を走らせ、止めること」、砲術は「玉を命中させること」のみが肝要であると、師範の言葉を聞き入れない。

そんな継之助が学問に目覚めるのは「知識と行動は一致すべき」とする、陽明学との

長岡の蒼龍窟

幕末の越後。薩摩や長州、会津といった雄藩が虚虚実実のかけ引きを繰り返している中で、わずかに七万四千石にすぎない長岡藩から一人の革命児が颯爽と登場した。冬の豪雪地、越後長岡から中央政界を見つめた男、河井継之助。壮大なスケールで藩の「武装中立」を目指した継之助は薩長の圧倒的な軍勢力と正面から衝突していく。

越後の風雲児 「河井継之助」と 北越戊辰戦争

出会いがきっかけだった。

江戸、そして西国へ

24歳で7つ年下のすが(長岡藩士・榎野嘉兵衛の妹)を妻に迎えるが、向学心やみがたく、26歳で単身江戸を目指す。蘭学や西洋砲術で知られた佐久間象山、古賀茶溪らの門を叩いた。

時あたかも黒船が来航し、事態の容易でないことを肌で感じた継之助は、幕府老中であつた10代藩主・牧野忠雅に藩政改革の必要性を建言する。これが採用されて、初の役職、評定方随役を任命されるが、間もなく上役の迫害を受けて退任した。

安政4年(1857)、父から家督を引き継ぎ、

継之助を育んだ長岡藩

越後長岡藩7万4千石。藩主は、三河国牛久保(愛知県豊川市)の土豪から身を興した牧野氏で、元和4年(1618年)に譜代大名として長岡の地に入封した。

藩に伝わる「牛久保の壁書」は、牧野家が戦乱の世で培った武士の心得、18か条をまとめたもの。250年間の統治によって深く長岡の地に浸透し、今日に至るまで影響を与える。

中でも「常在戦場」の4文字は、かつて藩士たちの一番の信条。継之助もこの言葉を敬愛した。

【西国遊学図】



藩では外様吟味役に起用される。継之助の「虫」がうずき始めたのはこの頃だった。

安政5年(1858)の吹雪の中、再び継之助は峠を越える。今回は江戸だけに留まらず西へ、西へ。目指したのは、備中松山藩(岡山県高梁市)の陽明学者、山田方谷である。藩の危機的財政を救った改革者に、継之助は叩頭して申し入れ、半年間その門で学んだ。

近代国家を見据えた改革

文久元年(1861)、35歳で帰郷すると、しばし英気を養って嵐を巻き起こす。

尊皇攘夷運動が激化する中、11代藩主・牧野忠恭に京都所司代、さらに老中職の依命が下りるが、継之助は幕府もろとも失墜し

かねないと辞任を求める。忠恭は機嫌を損ね、継之助は辞職してこれを償う。

ところが慶応元年(1865)、忠恭の抜擢で再び外様吟味役に就任すると、即座に案件だった山中村(現在の柏崎市)の庄屋と村民の闘争を解決し、これを布石に異数の昇進を遂げていく。

この間、継之助は、藩の組織・財政改革はもちろんのこと、慣習化した賄賂や賭博を禁止し、遊郭も廃止させた。

また、武士の不当な取り立てを罰して農民を救い、商業発展のため、川税や株の特権を解消した。藩士の禄高は正や門閥解体も当時、画期的なものであり、継之助は端尻すべからざる手腕をいかに発揮した。



北越戊辰戦争勃発

長岡藩の武装中立をめざして

継之助は、封建社会の古びた秩序を一掃し、人心の刷新を図った。夢に描いたのは新鋭な国家構想——他力に頼らず、冒されず、己の力で生きていく「武装中立国」の実現だった。

そのため軍備にも極めて力を入れた。武器は慎重に選び抜き、クリミア戦争で活躍した「ミニエー銃」は、プロシア出身の武器商人、スネルらから購入した。

また、中島村（現在の長岡市中島）には兵学所を整備して、フランス式兵制を推進し、こうして長岡藩は雄藩も目を見張る、近代武装を成し遂げた。

慶応3年（1867）10月、大政が奉還され、12月、朝廷が「王政復古の大号令」を発する。この時、年寄役の継之助は、譜代としての大儀を果たすため、12代藩主・忠訓を擁し京都に上

洛している。西国諸藩の謀略をするどく責め、徳川幕府の復権を訴える建言書を提出した。

だが、この檄文も公卿の耳には響かず、運命の慶応4年（1868）を迎える。1月3日、「鳥羽伏見の戦い」で戊辰戦争が始まった。

新政府軍、越後に迫りくる

京での戦いに勝利を収め、江戸城を無血開城させた、いわゆる新政府軍は、反抗勢力を制圧しようと各地へ軍隊を送る。

3月15日には、北陸道鎮撫総督の高倉永祐ながさちと副総督の四条隆平しじょうたかとしが高田（現在の上越市）に到着し、越後11藩に対して軍資金と兵士の供出を求めた。

一方、継之助は上洛後、大坂、江戸と転々としていたが、スネルの艦船で津軽海峡を経由して新潟港に入り、3月28日、ようやく長岡に到着

ガトリング砲の資金づくり

商人顔負け、継之助の経済感覚

継之助の遊郭通いは有名で、浪費家の印象が強いが、金銭の扱いは極めて厳正だった。取るべき時は取り、払うべき時は払うのが信条で、半銭たりとも無下にしなかった。

この感覚を生かしてか、江戸藩邸整理の際、貴重品を入れで売却した。また長岡への帰路、江戸で購入した米を箱館（現在の函館）で売り払ったり、銅銭を銭単価の高い新潟で換金したりした。

このように継之助は商人もどきの手配りで、莫大な利益を上げ、長岡藩の貴重な軍資金を

得た。長岡城落城の際、運び出された軍資金は11万両を超えたといわれ、その財力は他藩の羨望の的であった。



ガトリング砲復元モデル

【河井継之助記念館（長岡市）P12】／慶応4年（1868）2月、河井継之助は横浜のフェアブル・プラントから1門3千両で2門購入。5月19日の長岡城の落城の際、大手門前で自ら連射した。これはわが国で初めてのガトリング砲の使用だった。

小千谷会談決裂の舞台裏

継之助に対する不信感

継之助は、軍目付の二見虎三郎ふたみと従僕の松蔵まつぞうを引き連れ、期待と自信を抱いて袴姿で会談に臨んだ。しかしこの時、継之助の築いた「中立体制」が裏目に出る。

一旦は藩境に配置した兵を、会談にあたって撤退させる継之助に対し、同盟を求めている会津藩は「恭順のための会談では」と訝り、藩内の者さえ不審がった。

一方で岩村精一郎も、長岡藩の武装を怪しむ密偵の報告を受け、継之助を敵対者として捉えた。いかに重要な人物との、歴史を揺るがす「交渉の場」であったかは後年になって知ることである。

ついに継之助との対面を果たせなかった山県有朋は、回顧録「越の山風」で、「ひそかに白井等の不用意を遺憾とす」とその結末を悔やんだ。

小千谷会談の間

【慈眼寺（小千谷市）P19】／当時、薩摩藩の宿陣所となつた寺の座敷間。



岩村精一郎／土佐藩の出身で、血気盛んな24歳の時、継之助に対峙した。

している。

この頃、近隣諸藩のほとんどが新政府軍へ帰順していく中で、家老上席となった継之助は恭順派意見を退ける。しかし、対外的にはあくまで中立体制を保ち、沈黙を守り通した。

閏4月19日には、北陸道参謀の山県狂介やまがたきやうすけ（有朋）と黒田了介くろした（清隆）が高田に入る。継之助の名で知られた長岡を目標に、山道軍の1500人と海道軍の2500人が、続々と進軍を始めた。

中立の夢破れる、小千谷会談

26日、山道軍左縦隊は、芋坂・雪峠方面で会津軍・旧幕府歩兵隊を破り、翌27日、松代・松本両藩兵が先陣として小千谷に進駐。小出島戦争で会津軍が敗退した。

激しい爆裂音が、長岡まで響き渡ったこの日、継之助は軍事総督に任命されている。同日、23小隊を編成して各地に駐屯させ、摂田屋の光福寺に本陣を置いて防戦態勢を整えた。

5月2日、継之助は最後の望みをかけて、小千谷会談に臨む。会談の場は陣屋ではなく、真言宗の古刹、慈眼寺に設けられた。

また対面した相手は、予測した山県でも黒田でもなく、当時24歳の岩村精一郎いわただった。傍らには、薩摩藩の淵辺直右衛門ふちべのらふ、長州藩の山田一助やまだ、白井小助しらいちすけの3人が列座していた。

継之助は非戦思想を訴え、また和陸に向けた幕軍説得のための猶予を願い出る。しかし得意の舌鋒で、倒幕の理由を問いただすと、たちまち激論となり、憤然とした岩村は継之助の手を振り払い、その場を立ち去る。

中立の夢はもろくも破れた。翌日、継之助は本陣に諸隊長を集め、やむなき理由を述べて徹底抗戦を宣言する。

こうして長岡は、奥羽25藩と越後6藩で結成された「奥羽越列藩同盟」の先陣を切って、北越戊辰戦争最大の激戦地へと運命を辿っていく。

新政府軍を苦しめた巧みな戦術

■ 同盟軍、完勝を記す

新政府軍は兵数を増やし続け、この頃、約2万人に達したといわれる。対する同盟軍は5千人で、ここに絶対的な差があった。

そのため継之助は、長岡の南の要衝、榎峠の奪取作戦を綿密に練り上げ、敵の増援を阻む信濃川の増水の日を待ち続けた。

5月10日、いよいよ長岡軍は萩原要人と川島億次郎を指揮官に、佐川官兵衛率いる会津軍、立見鑑三郎率いる桑名の雷神隊、衝鋒隊と共に前進する。高台と対岸からの攻撃に苦戦するが、3方向から攻め込むと、布陣していた尾張、上田兵を退却させた。

初陣で勝利を飾った同盟軍は、榎峠の南東にある朝日山に強固な要塞を確保する。13日の早朝、長州兵と薩摩兵がこれに奇襲をか

けるが、援軍がままならず、さらに東山道軍仮参謀の時山直八を失って撤退した。

■ 城を守って全力を尽くす

榎峠、朝日山での惨敗で、北陸軍参謀の山県は長岡攻略作戦の変更を迫られた。

その結果、19日の早朝、敵は濁流渦巻く信濃川を突破して、寺島、中島村に上陸。守備が手薄な城下に弾丸の雨を降らせた。

継之助も本陣から急行し、自らガトリング砲を操って連打の砲を浴びせたが、時すでに遅く、遂にこの日落城。藩主忠訓らは森立峠へ避難し、八十里越を越えて会津に向かった。また藩士たちは各地から悠久山に集結し、再起を誓った後、栃尾へ撤退した。

この際、中島の兵学所では15～18歳の少

長岡城攻防絵図
【長岡市立中央図書館蔵(長岡市)P16】／榎峠の合戦から始まり、約3か月間にわたった激闘の様子が描かれる。



年たちが稽古着同然の姿で戦っている。また城岡の土手では、62歳の伊東道右衛門が、銃弾に倒れるまで槍を振りかざして朗々と口上を述べ、その勇姿を見せつけた。

炎上する城を見てもあきらめず、長岡藩士たちは死力を尽くして戦い抜いたという。

■ 長岡城奪還、叶う

継之助は一旦栃尾に退いたが、21日には加茂に本営を定め、23日には同盟軍の諸将を集めて「長岡城奪還作戦」を伝えた。

まず、敵の集中した今町を目標に据えた。6月2日、山本帯刀が率いる牽制隊(みせかけの隊)が4門の砲で凄まじい攻撃を仕掛ける

と、これに敵が応戦している隙に、継之助の主力部隊が突入、見事な陽動作戦により今町を占領下に置いた。

さらに快進撃は7月24日の夕刻、新たな展開を見せる。継之助の秘策、魔物が棲むと言われた大沼地帯、八町沖(八丁沖。現在の長岡市東北部)の奇襲作戦である。

鬼頭熊次郎に先導された690名の長岡兵は、想像を絶する泥水との格闘後、25日未明に富島に上陸し、城をめざして一気に攻め込むと、悲願の長岡城奪還を達成した。

この快挙に、城下は喜びに湧き上がる。町人は酒樽を開けて祝い、藩士を拍手で出迎えた。継之助の目にも涙が溢れたという。

北越戊辰戦争略年表

慶応四年(一八六八)

- 一月 三日 鳥羽・伏見の戦い。幕府より長岡藩に大坂城下玉津橋警備を命ぜられる。
- 二月 二日 大坂城警備の藩主忠訓ら江戸に向う。
- 二月 十日 藩主忠訓、江戸を発ち三月一日長岡帰城。
- 三月 三日 継之助、江戸藩邸を整理し、最新式ガトリング機関砲や小銃数百挺を購入し、江戸を出航。
- 三月 十五日 北陸道鎮撫総督の高倉永祐副総督の四糸隆平が高田到着。
- 三月 十六日 総督府、長岡藩植田十兵衛を呼び、兵を差し出すよう命令。
- 三月 十九日 高倉永祐らは江戸へ向かう。
- 三月 二十日 継之助、箱館を経由し長岡へ着く。
- 三月 二十四日 中島において藩兵の大訓練。
- 三月 二十七日 藩士総登城。継之助、藩主忠訓出席のもと「三百年来の主恩に酬い、義藩の嚆矢たらん」ことを宣する。
- 閏四月九日 北陸道参謀の山県狂介(有朋)・東田了介(清隆)高田到着。
- 四月 二十日 新政府軍は、山道軍千五百人と海道軍二千五百人の二軍に分かれ高田を出発。
- 四月 二十六日 継之助、軍事総督となる。二十三小隊砲兵予備隊に編制し、撰田屋光福寺に本陣を置く。各所に警備陣を配備。山道軍左縦隊は、芋坂雪峠方面で会津軍、幕府歩兵隊を破る。
- 四月 二十七日 松本阿南藩兵が先陣として小千谷に下駐。小出島戦争で会津軍が敗退して小千谷を占領し、本営を置く。
- 四月 二十八日 海道軍、鯨波の桑名兵を破り柏崎に本営を定める。
- 五月 一日 花輪彦左衛門を小千谷本営に派遣し、公見を申し入れる。
- 五月 二日 継之助、目付の二見虎三郎と従僕の松蔵を伴い、小千谷の慈眼寺で軍監岩村精一郎と会談、約三十分で決裂。
- 五月 三日 継之助、前島村で川島億次郎と会談し開戦を決意。撰田屋本陣で諸隊長を前に戦う事由を演説。
- 五月 四日 長岡藩開戦決定。奥羽列藩同盟に加盟。
- 五月 六日 村松・村上などの下越四藩も加盟し、奥羽越列藩同盟となる。
- 五月 十日 光福寺本陣から萩原要人と川島億次郎を二手に分け、榎峠奪取。
- 五月 十日 朝日山争奪戦始まる。
- 五月 十三日 朝日山激戦。長州藩参謀代理 時山直八戦死。
- 五月 十九日 早朝、新政府軍大島・榎下方面から信濃川渡河を強行し、急襲。長岡城落城。森立峠・浦瀬見附今町まで占領。藩主忠訓らは森立峠から栃尾へ避難し、八十里越から会津へ落ちのびる。
- 五月 二十日 河井継之助ら長岡軍、栃尾郷榎谷へ退却。
- 五月 二十日 同盟軍、加茂に集結し、本陣を置く。
- 五月 二十日 本道坂井口―山本帯刀 午後八時ころ今町占領
- 五月 二日 今町奪回戦 中央安田口―河井継之助 午後八時ころ今町占領 新政府軍刈谷田川をこえ、川辺・大黒・福島・野瀬・半蔵金を結ぶ線まで戦線を後退。
- 五月 六日 福井へ進出、戦闘。
- 五月 八日 森立峠方面の戦闘。
- 五月 十四日 新政府軍、会津征討越後口総督に仁和寺宮を任命し、兵力を大増強。
- 五月 十七日 継之助、栃尾本陣で山本帯刀、牧野次郎三間市之進の三大隊長と川島億次郎三間市之進の軍事掛らを集め長岡城奪回作戦を説明。
- 五月 十九日 長岡藩へそが見附へ移る。
- 五月 二十四日 長岡軍六百余名、百束から八町沖を潜行し、長岡城奪回作戦敢行。
- 五月 二十五日 未明、富島に上陸。先導役の鬼頭熊次郎戦死。長岡城めざし猛進撃し、奪回に成功。新政府軍、西園寺参謀は関原へ、山県狂介は小千谷方面へ退く。
- 五月 二十六日 継之助、新町口の激戦で銃撃され重傷。
- 五月 二十九日 新政府軍猛反撃。長岡城再び落城。
- 五月 三十日 継之助、八十里越から会津口へ見村に入る。
- 六月 十六日 継之助、会津塩沢医師矢沢宗益宅で没する。四十二歳。
- 六月 十八日 山本帯刀、会津飯寺の戦いでとらわれ、翌日斬首される。
- 六月 二十五日 藩主忠訓米沢で降伏。



三間正弘(三間市之進) 川島億次郎(川島億次郎)



二見虎三郎



長岡藩本陣跡碑【光福寺(長岡市)P13】

長岡の蒼龍窟、昇天する

重鎮を失って、2度目の落城

かねてからの北陸道での大苦戦に、新政府軍の京の本営では「会津討伐越後口軍」を編成し、大量の兵士を送り込んでいた。しかし、八町沖からの急襲に、再び敵は慌てふためき、大混乱に陥ってしまう。

一方で長岡軍は、休む間もなく残兵との交戦に明け暮れた。特に新町口の戦いが激しく、継之助は兵を集めて現地に飛ぶが、途中、銃弾に左足を突き抜かれる。その症状は重く、軍病院のあった昌福寺に送り込まれた。

頼みの総指揮官の負傷に、長岡軍は大きな衝撃を受け、疲労と困惑の中で戦況は悪化の一途をたどっていく。

この頃、新政府軍は新潟港に上陸を果たし、新発田藩の寝返りを誘って道案内とし、大量の兵を自在に進めた。また、これを後押しに、妙見村で態勢を整えた28小隊が猛進撃を始め、さらに対岸の軍勢も続々と信濃川を渡って攻めこんできた。

必死の攻防も空しく、奪還からわずか4日後の7月29日、再び長岡城は陥落した。

八十里越えに向かって

今や敵の圧倒的な兵力は越後平野を覆いつつあり、長岡藩士たちは苦難の「八十里越」を経て会津へ向かう。

高熱にうなされた継之助も、辻駕籠でこの道のりを渡り、悪路に揺れながら「八十里腰抜け武士の越す峠」と自嘲の句を詠んでいる。

峠を越え、会津領に入った継之助の容態は急を告げた。軍医、松本良順の診察を受けるが、もはや手の施しようがなかった。



終焉の間【河井継之助記念館（只見町）P23】

8月12日に再び会津に向けて出発するものの、塩沢村の医師、矢沢宗益の家で最期を迎えることになる。継之助は棺と骨箱をつくらせ、自分を火葬するための火を起こさせたという。

16日の午後8時頃、幕末の風雲を走り続けた継之助は、真っ赤な炎とともに天にのぼった。享年42歳だった。

武士の時代の終焉

藩の存続を願う継之助の魂は、幽明境を異にした長岡藩士たちに受け継がれた。

当時、長岡から会津に向かった者は、その家族も含めて約1500名にも上る。しかし、八十里越は難渋を極め、空腹と疲労で行き倒れる場合も多かった。中には、病人や幼児を見殺しにする惨劇もあったという。

越境した藩士らは、会津領只見村（現在の只見町）の村民に温かく迎えられ、やがて行軍を再開する。18日には、会津坂下の定林寺に約600名の長岡兵が集結し、新たに6小隊を編成して、会津へ転戦していく。

25日、七日町口（涙橋）の戦いに参戦し、15名が命を亡くした。また遅れて入った山本帯刀隊は、飯寺で最も悲惨な結末を迎える。濃霧の中、敵を味方と見誤り、9名が戦死、33名が捕

縛の後、斬首されてしまう。

故郷から離れた地でも、長岡兵は多くの犠牲を払って奮戦したが、すでに同盟諸藩は次々と白旗を掲げ、敗北は明らかだった。

25日、流浪の身となっていた長岡藩は、米沢において無念のうちに降伏を告げた。

戦後の長岡藩

まちの復興、不死鳥のごとく

長岡人の誇りをもって

3か月に及ぶ激戦の結果、長岡のまちは悉く焼き尽くされた。戦死者数は300数十名に及び、100名近い領民も犠牲となった。

長岡藩は「賊軍」と蔑まれ、辛い歴史を歩み始める。藩主牧野家の断絶は免れたが、禄高は7万4千石から2万4千石に減封され、人々の暮らしは飢餓と貧困に陥った。

しかし、長岡人は「質朴剛健」の気質を誇り、残る力を振り絞る。この時、継之助の幼なじみ二人が大参事として藩の再興に尽力している。

一人は三島億二郎で、藩の救済を求めて東奔西走した。明治3年、財政事情を鑑みて廢藩を決定し、武士の帰農・帰商を図るとともに、町人たちと手を取り合い殖産興業を手がけた。

もう一人の小林虎三郎は人材の育成に努め、三根山藩からの救援米を売却して「国漢学校」を整備したことは、「米百俵の故事」で知られる。

米百俵の群像
【同（長岡市）P17】



山本帯刀／神童と呼ばれた帯刀は、8歳で安田家から、親戚筋に当たる長岡藩家老・山本勲右衛門の養子になった。

山本五十六／生家・高野家の祖父と父、兄二人が戊辰戦争に出陣した。五十六は故郷の先人、河井継之助を尊敬したという。

非命に倒れた勇将、山本帯刀

継之助を支えた青年大隊長

大隊長として活躍し、継之助の没後、軍事総督として跡を継ぐものと期待された山本帯刀。

藩士120人を率い、殿軍となって八十里越の難所、鞍掛峠を死守した後、遅れて会津に入るが、飯寺の奪取作戦で味方の退却を知らずに突進し、敵を同胞と信じて手が出せず包囲される。

帯刀は降伏を迫られたが、「徳川300年の恩恵に背くことがなぜ出来ようか。我らは藩命により戦場にあるが、降伏せよとは命ぜられず」と反駁し、敵をひるませた。

寒風の中に一晚さらされた後、24歳の若さで斬首された帯刀は、継之助とともにこの戦いの首謀者とされ、山本家は一度断絶されている。

後に、初代長岡市長の計らいで、山本五十六がこの名家を復興させた。彼もまた第二次世界大戦の戦火の中で非業の死を遂げている。

こうして長岡は、灰燼の中から着実に復興を成し遂げ、明治39年には牧野忠篤を初代市長に「長岡市」の誕生を迎える。

後に、第2次世界大戦の空襲により苦渋の歴史を繰り返すが、再び市民の活力で不死鳥のごとく蘇った長岡市。復興と発展を遂げた現在のまちの姿を、空の上の継之助はどんな気持ちで見つめていることだろう。

継之助に思いを馳せ、戊辰史跡をたどる。

新政府軍が退いた、
北越最大の激戦地

新潟県 長岡市

慶応4年(1868)5月10日、榎峠において戦いの火蓋を切った長岡藩。新政府軍を脅かした戦いぶりは後世まで語り継がれるが、およそ3か月にも渡る熾烈な攻防戦により、その領地は壊滅的な打撃を受け、多くの命が犠牲となった。

長岡の見どころ

祭



米百俵まつり

越後長岡の「米百俵の精神」と郷土の歴史を楽しく学ぶことができるまつり。長岡藩の隊列を市民らが再現する「越後長岡時代行列」のほか、飲食・物販コーナーなど、子どもたちが楽しめるコーナーも盛りだくさん。
●開催日/10月第1土曜日
●会場/大手通り、スラン・セントラル通り

祭



長岡まつり

長岡は、戊辰戦争と第2次世界大戦、2つの戦いで、戦火にさらされた悲運のまち。それでも市民は不撓不屈の精神で、まちを復興させた。長岡まつりは、昭和21年に開催された「長岡復興祭」が始まり、8月2、3日に2夜続けて開催される大花火大会は、多くの観客で溢れかえる。
●開催日/8月1日、2日、3日
●会場/大手通り、長生橋下流 信濃川河川敷ほか

観光



山本五十六記念館

館内には、ブーゲンビル島から里帰りの「攻撃機の左翼」が大きく横たわる。近くの「山本記念公園」には、胸像と復元した生家跡がある。なお五十六は32歳で戊辰戦争で大隊長として活躍した山本帯刀の家を継いだ。妻は旧会津藩士の娘。
●所在地/長岡市呉服町1-4-1
●電話/☎0258(37)8001
●観覧料/大人500円、小中学生200円



お問い合わせ
●長岡市観光企画課 ☎0258(39)2344
●(一社)長岡観光 ☎0258(32)1187
コンベンション協会 (観光ボランティアガイド窓口)
●長岡駅観光案内所 ☎0258(36)3520
●長岡市ホテル旅館組合 ☎0258(29)7654



平成18年に長岡市政100周年を記念して整備された。展示室からは「おもかげの庭」を眺めることができる。

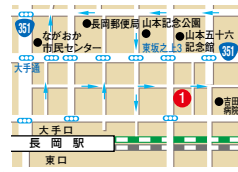
蒼龍窟の屋敷跡

① 河井継之助記念館

地図P10 A-4

長町の河井邸跡に記念館は建つ。ここでは展示品とわかりやすいパネルで継之助の偉業を偲ぶことができる。長岡では継之助の「生涯」を、只見では「終焉」を知ることができ、両館を訪れることで、より一層当時への思いが深まる。

- 所在地／長岡市長町1-甲1675-1
- 交通／長岡駅から徒歩5分 ●開館時間／10:00～17:00
- 休館日／毎週火曜日(祝日の場合 翌平日)、12月29日～1月3日
- 観覧料／大人200円・小中学生100円



新政府軍の横暴を訴え、開戦に踏み切った継之助。この決意が長岡の歴史を大きく変えた。

継之助の意志を固めた友の言葉

④ 開戦決意の地記念碑(前島神社)

地図P11 B-3

継之助は小千谷会談の翌朝、前島村を警備中の川島億次郎(三島徳二郎)を訪れ、会談の結果を伝えた。「もしするならば、我を切り3万両とともに差し出せ。さすれば戦争は避けられる」と迫る継之助に、三島は1度は再考を求めたものの、「是非もなし。死生をともにせん」と応じた。

- 所在地／長岡市前島町
- 交通／長岡駅大手口からバス20分、前川駅前下車で徒歩3分



軍事総督・河井継之助が采配を振るう

⑤ 長岡藩本陣跡(光福寺)

地図P11 C-3

会談決裂後、継之助は諸隊長を撰田屋村の光福寺に集め、「開戦やむなし」と宣言して、士気を鼓舞した。光福寺は城の南方4kmに位置する。慶応4年(1868)5月19日に長岡城が落城し、同盟軍が加茂に撤退するまで本陣として使われた。外観のみ見学可。

- 所在地／長岡市撰田屋町1-13-35
- 交通／長岡駅東口からバス20分、撰田屋1丁目下車で徒歩5分



撰田屋町は三国街道沿いにあった。



白狐の教で形を決めたという「築城伝説」があり、石碑の奥には、この狐を祀ったという城内稲荷神社が建つ。

激戦の舞台となった長岡城の跡

② 長岡城址(二の丸跡)

地図P10 A-4

その独特の構えから「芋引形兜城(おびきがたかぶとじょう)」と称された長岡城。天守閣はなかったが、「御三階(おさんがい)」と呼ばれる櫓がその役割を果たした。現在では、その姿を見ることはできないが、二の丸跡を示す石碑がある。本丸跡は今の長岡駅付近。

- 所在地／長岡市大手通1 ●交通／長岡駅大手口から徒歩3分



戦いの幕開けは、継之助の作戦どおりに運ばれていった。

戦いの火蓋、切って落とされる

⑥ 榎峠古戦場パーク

地図P11 B-4

長岡城下から南へ13kmの榎峠は、信濃川沿いにある要所。継之助はすでに小千谷を占領し、この辺境まで布陣していた新政府軍から、峠を奪い返す態勢を整える。慶応4年(1868)5月10日、遂に長岡軍が発砲。その後、戦いの舞台は朝日山へと移っていった。

- 所在地／長岡市妙見町 ●交通／長岡駅からバス30分、浦柄三差路下車で徒歩5分



長岡藩主牧野氏の菩提寺で、屋根瓦などに三葉柏の紋所が見られる。本堂は北越戊辰戦争で焼かれ、現在ある建物は再建されたもの。

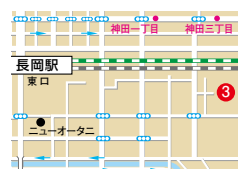
藩主や藩士とともに眠る墓所

③ 河井継之助の墓(栄涼寺)

地図P11 B-3

本堂の左手には明治5年(1872)に建立された戊辰戦争の戦死者らを慰霊する「追遠の碑」がある。墓地の奥まった所に河井家代々の墓があり、「忠良院殿賢道義了居士」が継之助の戒名。歴代藩主のほか、三島徳二郎、二見虎三郎らの墓もある。

- 所在地／長岡市東神田3-5-6
- 交通／長岡駅大手口からバス5分、神田1丁目または神田町下車で徒歩10分



近代の夜明けを告げたとの意味で、「維新の暁鐘」と呼ぶ。長岡城下で造られた最古の鐘。

鐘よ、敵の到来告げて鳴り響け

⑦ 維新の暁鐘(西福寺)

地図P10 A-4

慶応4年(1868)5月19日の早朝、榎峠からの攻略が難しいと判断した新政府軍は、作戦を変更して信濃川左岸の本大島村、榎下村から長岡城めざして渡河。この侵攻を城下に知らせようと、一藩士が鐘を力の限りに乱打したといわれる。

- 所在地／長岡市波里町3-21 ●交通／長岡駅大手口から徒歩10分





2つの碑と2つの墓がある。墓は長岡藩銃卒隊のもの。

落城の悲劇を招く発端の地

⑧ 西軍(新政府軍)上陸の地

地図P11
B-2

劣勢に立たされた新政府軍は、増水していた信濃川を強行渡河。中島に上陸すると、周辺の民家や兵学所に火を放ちながら城下に進んだ。当時、城の南に本隊を置いた長岡藩は、兵力が乏しく必死に攻防したが、長岡城は落城した。



- 所在地 / 長岡市中島1-10-17
- 交通 / 長岡駅大手口からバス10分、中島2丁目下車で徒歩1分



当時は南北5km、東西3kmに渡る低湿地帯だった。今はのどかな水田風景が広がる。

奇襲、長岡城奪還作戦決行の地

⑨ 八丁沖古戦場パーク

地図P11
C-1

八丁潟(八丁沖)は当時、深田などの多い低湿地帯であり、ここからの侵攻は考え難いことだった。ところが、継之助率いる長岡兵690余名は決死の覚悟でこの沖を渡った。敵の隙をついた奇襲作戦は成功し、長岡城は見事奪還された。



- 所在地 / 長岡市富島町
- 交通 / 長岡駅東口からバス25分、富島下車で徒歩3分



大黒・福井での戦いは約1か月半も続き、泥沼の戦闘となった。ここは砲臺の築かれた跡地。

北越戊辰戦争最大の激戦地

⑩ 大黒古戦場パーク

地図P11
C-1

大黒村には一時、新政府軍の最前線基地が置かれ、幾度も激闘が交わされた。周辺での戦死者数は、両軍合わせて100名にも及ぶ。その勇戦を讃えて、戦場跡には記念碑が建てられた。海軍中將時代の山本五十六の書が刻まれている。



- 所在地 / 長岡市大黒町
- 交通 / 長岡駅大手口からバス25分、七軒町下車で徒歩10分、押切駅から徒歩20分

長岡市新組地区の農民の目から見た戊辰戦争

⑪ 北越戊辰戦争伝承館

地図P11
C-1

地域に伝わる当時の資料や逸話、地元の人や農村文化を紹介している。また、2階バルコニーからは、長岡城の奪還を目指して長岡藩兵が渡った、有名な八丁潟(八丁沖)を見渡すことができる。



- 所在地 / 長岡市大黒町39番地2 ●電話 / 0258-21-2688 もしくは科学博物館へ(Tel.0258-32-0546)
- 開館時間 / 午前10時から午後4時 ●休館 / 月曜日・金曜日(国民の祝日の場合は翌日)、12月1日から翌年3月31日まで



慶応4年(1868)の北越戊辰戦争で、長岡城奪還をめぐる激しい攻防が繰り広げられた長岡市新組地域。



鳥居の脇に建つ長岡藩名臣之碑が、熊次郎の活躍を讃える。

八丁沖作戦の影の立役者を讃える

⑫ 日光社

地図P11
C-1

長岡城奪還作戦の第一功労者、鬼頭熊次郎の碑がある。32石取りのこの藩士は、貧しさのため八丁沖で魚をとって生活していた。先導役の抜擢を受け、熊次郎は見事に大役を果たすが、発砲を禁じた命令を守って、富島町上陸後に銃弾を受けて息を引き取った。



- 所在地 / 長岡市富島町
- 交通 / 長岡駅東口からバス25分、富島下車で徒歩1分



道右衛門は口上を述べて時間をかせぎ、隊士たちを危機に瀕した長岡城へ向かわせた。

長岡藩の武士魂を貫いて

⑬ 伊東道右衛門の碑

地図P11
C-1

長岡城の落城の日、62歳の長岡藩大砲隊長・伊東道右衛門が壮絶な死を遂げた。この老武士は、「槍刀製作者」を著した槍術・砲術の名人。近代兵器を前にしながらも、先祖伝来の甲冑を付け、「われと戦わんと欲する者、来て勝負せよ」と叫び、長槍で勇敢に戦ったという。



- 所在地 / 長岡市城岡3丁目
- 交通 / 長岡駅大手口からバス12分、城岡橋下車で徒歩2分



三島は「君の才能が充分発揮されなかったことを悲しんだ」と綴った。

その非凡なる才能を惜しみ、尊んで

⑭ 河井継之助の碑

地図P11
C-2

碑文は、継之助が山田方谷のもとで親交を深めた三島毅(中洲)。題額は、新政府軍で越後口の参謀を務め、山県有朋とともに長岡城攻略を行った黒田清隆による。当初は城跡につくられた長岡駅の前にあったが、大正7年(1918)に移設された。



- 所在地 / 長岡市御山町 悠久山公園内
- 交通 / 長岡駅東口からバス15分、悠久山または御山町下車で徒歩15分



蒼柴神社の裏手にひっそりと建つ。社殿前には、河井継之助と山本帯刀の墓標などが並んでいる。

藩命を全うして逝った先人たちを祀る

⑮ 悠久山招魂社

地図P11
C-2

軍事総督・河井継之助や大隊長・山本帯刀をはじめ、北越戊辰戦争の戦死者300余名と、西南戦争で殉じた旧藩士、18名を祀っている。悠久山の蒼柴神社内に明治7年に造営され、明治45年に改築されたもので、社殿に歴史が感じられる。



- 所在地 / 長岡市御山町 悠久山公園内
- 交通 / 長岡駅東口からバス15分、悠久山または御山町下車で徒歩15分



北越戊辰戦争に出兵した長岡藩兵は1,100名あまり。戦死者は300名にも上った。

初代藩主の眠る地に、若き勇士の碑

16 普濟寺

地図P11
D-2

三間豊蔵、牧野金太郎ら、北越戊辰戦争に参戦し、年若くして散った少年隊士の名碑が建つ。石段を登った最上段には、長岡藩初代藩主・牧野忠成の墓があり、長岡の高台から今も長岡のまち並みを見守り続ける。

- 所在地 / 長岡市栖吉町3039
- 交通 / 長岡駅東口からバス20分、栖吉中央下車で徒歩5分



4階の天守閣部分は展望室で、長岡市街地が見渡せる。戦闘のあった位置を、地形模型で確認できる。

長岡の歴史と文化を一挙紹介

17 長岡市郷土史料館

地図P11
C-2

悠久山の高台にあり、お城の形をした建物。「河井継之助の足跡」「戊辰戦争を戦った人々」等のコーナーがあり、大隊長山本帯刀の佩刀、継之助が使用した河井家の家紋入り提灯などを展示している。

- 所在地 / 長岡市御山町80-24 ●電話 / ☎0258(35)0185 ●休館日 / 月曜、祝日の翌日、12月28日～1月4日 ●開館時間 / 9:00～17:00 ●入館料 / 大人300円、小・中150円 ●交通 / 長岡駅東口からバス15分、悠久山または御山町下車で徒歩15分



「牧野7万4千石と戊辰戦争」など5つのコーナーで構成。

学校の歴史と財産を一般公開

18 阪之上小学校・伝統館

地図P11
B-4

長岡市立阪之上小学校は、明治2年に三根山藩から届いた百俵の米を書籍や器材に充てて設立された、「国漢学校」が前身。この学校に「米百俵の精神」とともに受け継がれてきた史料のほか、市民提供の品々も展示している。長岡城の復元模型などは必見。

- 所在地 / 長岡市今朝白1-11-21 ●電話 / ☎0258(32)2134(見学希望は要予約) ●休館日 / 土・日曜、祝日 ●交通 / 長岡駅東口から徒歩3分



図書の出しに巡回するバスの愛称は「米百俵号」。

郷土の重要資料を保管

19 長岡市立中央図書館

地図P11
C-2

蔵書数およそ41万冊* (分館も併せて約85万冊)。長岡市内だけでなく、広域の市町村から利用者が訪れる。一角に「郷土コーナー」があり、北越戊辰戦争関連の資料、文献を閲覧することができる。※F4.3.31現在

- 所在地 / 長岡市学校町1-2-2 ●電話 / ☎0258(32)0658
- 休館日 / 月曜(祝日等に当たるときはその翌日)、毎月末日、年末年始、特別図書整理期間 ●開館時間 / 9:30～19:00 ●交通 / 長岡駅東口からバス5分、学校町または市民体育館前下車で徒歩1分



高野家から山本家を継いだ山本五十六の墓もある。

長岡の歴史に名を刻む先人たちの墓所

20 長興寺

地図P11
C-2

大隊長・山本帯刀をはじめ、多くの長岡藩士が眠る。戊辰の当時、家老を務めた稲垣平助の家が興した寺。稲垣は「恭順」を表すため新政府軍に投降し、長岡の弁明に立ったが、主戦派の非難を受けた。後の藩再興への貢献者で、娘の一人が「武士の娘」を著した杉本鏡子。

- 所在地 / 長岡市稽古町1636
- 交通 / 長岡駅大手口から徒歩25分



「米百俵の精神」を継承しよう、虎三郎没後百年を記念して建てられた。

長岡の教育の礎「国漢学校」の跡地

21 米百俵の碑

地図P10
A-4

小林虎三郎らは明治2年、昌福寺(四郎丸4-6-21)の本堂を借りて国漢学校を開校。翌年、三根山藩から送られた米百俵を売却して資金をつくり、ここに校舎を建設した。現在、長岡市は開校日の6月15日を「米百俵デー」とし、記念事業を行っている。

- 所在地 / 長岡市大手通2丁目3-10
- 交通 / 長岡駅大手口から徒歩5分



右から3人目が小林虎三郎。背景の石柱は、刀をイメージしたもの。

「米百俵の精神」のシンボル

22 米百俵の群像

地図P11
B-1

千秋が原ふるさとの森の中央に圧倒的な迫力をもってそびえ立つ。山本有三の戯曲「米百俵」を歌舞伎座で上演した際のクライマックスの一場面を再現したもの。この像を囲むようにして、デザイン豊かな芸術・文化・産業施設が立ち並び。

- 所在地 / 長岡市千秋3丁目315
- 交通 / 長岡駅大手口からバス20分、県立近代美術館またはハイブ長岡下車



長岡城復元模型(縮尺1/300)

藩主牧野家とともに歩んだ長岡の歴史

23 長岡藩主 牧野家史料館

地図P11
B-2

長岡藩が誕生した元和4年から明治3年の廃藩まで、250年あまりの長い期間、藩主牧野家とともに歩んだ長岡の歴史を概観し、現在まで受け継がれてきた長岡の文化の魅力に触れることができる。

- 所在地 / 長岡市幸町2-1-1(さいわいプラザ内)
- 電話 / ☎0258(32)0546(科学博物館)
- 休館日 / 第1・3月曜(祝日の場合はその翌日)、12月28日～1月4日
- 開館時間 / 9:00～17:00
- 交通 / 長岡駅大手口からバス10分、市立劇場前下車で徒歩1分



和平の想い届かず、
会談決裂の地

新潟県 小千谷市

信濃川の水運で栄え、小出島(旧小出町)と同様、幕末に会津藩の預地となり、11万3千石を治める陣屋が置かれた。慶応4年(1868)閏4月26日、雪峠での会津藩と新政府軍の戦いで、北越戊辰戦争が始まる。



お問い合わせ
 ●小千谷市にぎわい交流課 ☎0258(83)3512
 ●小千谷観光協会 ☎0258(83)3512

継之助に思いを馳せ、戊辰史跡をたどる。

北越戊辰戦争における最初の戦火

24 雪峠の碑 地図P18 C-2



山沿いの道が旧道。当時の鉄砲玉の跡が残る家もある。

山道軍は長岡城陥落のため更に二手に分かれ、左縦隊は川西町を通って芋坂、雪峠に、右縦隊は小出島に進軍。いずれも会津藩隊や衝鋒隊を撃破し、1868年閏4月27日、小千谷を無血占領するに至った。雪峠の戦いがあったその日、長岡藩は光福寺に本陣を設営している。



●所在地 / 小千谷市池ヶ原の南 ●交通 / 小千谷駅前からバス20分、南中学校入口下車で徒歩10分

長岡藩の命運を決した会談の場

25 慈眼寺 地図P18 A-2



会談の間や本堂内には、各種資料も展示されている。

北越戊辰戦争を語るのに、欠かすことのできない史実、小千谷会談の行われた場所。継之助の懇願は届かず、岩村精一郎はわずか30分で席を立ち、会談は決裂した。本堂に入ると右側には、二人が対面した「会見の間」が当時のまま残されている。見学は、事前に申し込みが必要。



●所在地 / 小千谷市平成2-3-35 ●電話 / ☎0258-82-2495
 ●交通 / 小千谷駅前からバス6分、本町西下車で徒歩7分
 ●拝観料(会見の間) / 個人300円、団体(20名以上)200円

新政府軍を、作戦変更の窮地に追い込む

26 朝日山古戦場 地図P18 C-1



登り口にある浦柄神社には、会津藩士21名の墓や記念碑がある。

山頂には、長岡藩の築いたフランス式塹壕や、野営場の跡が残る。また至る所に、壮絶な戦いが繰り返された証しのように、両軍の名を刻んだ墓石が立つ。山頂への道は、かろうじて車が一台通る幅。当時の光景に想像をめぐらせながら、40分ほどかけて登山する人も多い。



●所在地 / 小千谷市浦柄 ●交通 / 小千谷駅前からバス10分、朝日山入口下車で徒歩40分

河井継之助の名を全国に広めた小説

27 司馬遼太郎『峠』の碑 地図P11 B-4



碑には、『峠』の一節と氏の言葉が刻まれている。

かつて長岡城の大きな砦となり、新政府軍の侵攻を妨げた大河、信濃川。この川に架かる「越の大橋」の西端に立つ。橋の西詰は小千谷市で、東詰は長岡市。新政府軍が駐屯した三仏生と、合戦場となった榎峠、朝日山へと道をつなぐ。



●所在地 / 小千谷市 越の大橋西詰 ●交通 / 小千谷駅前からバス10分、妙見神社前下車で徒歩5分

小千谷の見どころ

祭 片貝まつり (浅原神社祭礼) 地図A-2

400年の歴史を誇る花火大会がメイン。この片貝(山)と長岡(川)、柏崎(海)の花火を合わせて、「越後三大花火」と称される。昭和59年から打ち上げを始めた四尺玉は、ギネスブックにも載る大迫力。

- 期間 / 9月上旬
- 会場 / 小千谷市片貝6548 浅原神社裏
- 交通 / 小千谷駅前からバス20分、片貝三之町下車で徒歩1分

観光 船岡公園 地図A-2

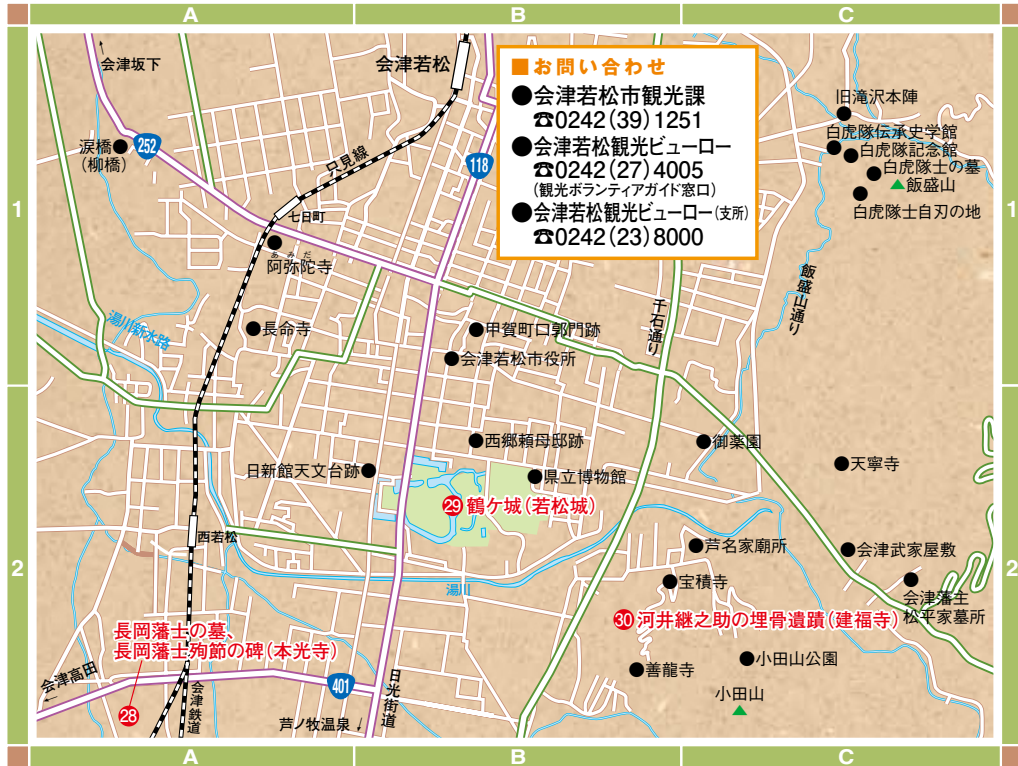
桜やヤマメが咲き誇る、市民の憩いの広場。戊辰戦争時には、ここに(当時は船岡山)新政府軍の戦死者が運ばれ埋葬された。公園の一角には200基以上の墓が並び、山県有朋の親友であり、朝日山で落命した時山直八の碑も建つ。

- 所在地 / 小千谷市船岡、稲荷町
- 交通 / 小千谷駅前からバス6分本町西下車で徒歩10分

時代の大きな狭間に
激動した地

〔福島県〕会津若松市

幕末の動乱期、京都守護職を勤めた藩主・松平容保のもと、幕府側の先鋒として果敢に戦い続けた藩の精神と、白虎隊に象徴される幾多の悲劇は、会津の地に深く記憶される。



会津若松の見どころ

祭

見所は戊辰戦争を偲んで行われる会津藩公行列。時代衣装を身につけた武者たち約500人が鶴ヶ城を出発し市内を練り歩く。その他、会津磐梯山踊り、提灯行列等が行われる。

- 期間/9月下旬
- 会場/鶴ヶ城および市内

会津まつり

見所は戊辰戦争を偲んで行われる会津藩公行列。時代衣装を身につけた武者たち約500人が鶴ヶ城を出発し市内を練り歩く。その他、会津磐梯山踊り、提灯行列等が行われる。

観光

会津藩家老の西郷頼母邸を復元したもの。7,000坪もの広大な屋敷跡で、当時の家老の暮らしがわかる。各種資料館も併設。

- 所在地/会津若松市東山町大字石山字院内1
- 交通/会津若松駅からバス約20分、会津武家屋敷前下車
- 休館日/冬季のみ休館日あり ●電話/☎0242-28-2525

会津武家屋敷 地図 C-2

会津藩家老の西郷頼母邸を復元したもの。7,000坪もの広大な屋敷跡で、当時の家老の暮らしがわかる。各種資料館も併設。

- 所在地/会津若松市東山町大字石山字院内1
- 交通/会津若松駅からバス約20分、会津武家屋敷前下車
- 休館日/冬季のみ休館日あり ●電話/☎0242-28-2525

継之助に思いを馳せ、戊辰史跡をたどる。



長岡藩士殉節顕彰会では毎年9月、飯寺で落命した44名と継之助の弔霊祭を行っている。

八十里越を経て、会津に散った長岡藩士を弔う

28 長岡藩士の墓、長岡藩士殉節の碑(本光寺) 地図P20 A-2

飯寺付近で会津藩士らとともに戦い、斬首された、山本帯刀大隊長と隊士43名の名を刻んだ「無縁戦死供養」の碑。これは明治23年、飯寺の人々が、新政府軍の監視の目をかいくぐって建立したもの。昭和31年には、隣に「長岡藩士殉節の碑」が建てられた。



- 所在地/会津若松市門田町大字飯寺字村西674
- 交通/会津若松駅からバス21分、飯寺東下車で徒歩5分(墓と碑は寺から徒歩5分)



五層の天守閣がそびえ立つ美しい城は、会津若松のシンボル。国指定史跡。

会津藩の威厳を誇る名城

29 鶴ヶ城(若松城) 地図P20 B-2

至徳元年(1384)に輩名直盛が築いた「東黒川館」が起源。戊辰戦争時には1か月に及ぶ籠城戦に耐えた難攻不落の城。明治7年、新政府の命令で取り壊されたが、天守閣は昭和40年に再建された。



- 所在地/会津若松市追手町1-1
- 電話/☎0242-27-4005 ●休館日/無休
- 入館料/大人410円、小人150円
- 交通/会津若松駅からバス20分、鶴ヶ城入口下車で徒歩5分



継之助の遺骨が到着した翌日、会津藩主・松平容保も参列して、荘厳な葬田気の中で葬儀が行われた。

無念の後に、会津の地へ

30 河井継之助の埋骨遺跡(建福寺) 地図P20 B-2

会津藩主・松平家の菩提所であり、落城とともに落ち延びた長岡藩主が滞っていた建福寺。このことから、会津塩沢(現在の只見町)で息を引き取った継之助の遺骨は、一旦この寺に埋骨され、翌年長岡に帰る。現在、墓地の一角に「故長岡藩総督河井継之助君埋骨遺跡」の碑が建つ。



- 所在地/会津若松市建福寺前7-3
- 交通/会津若松駅からバス20分、建福寺前下車で徒歩5分

洋式武器の調達士 スネル兄弟

幕末、外交官として入国した、プロシア出身のスネル兄弟(兄ヘンリー、弟エドワード)。横浜に「バケテ・スネル商会」を設立し、主に越後や東北諸藩への、武器・軍艦の仲買人として活躍した。

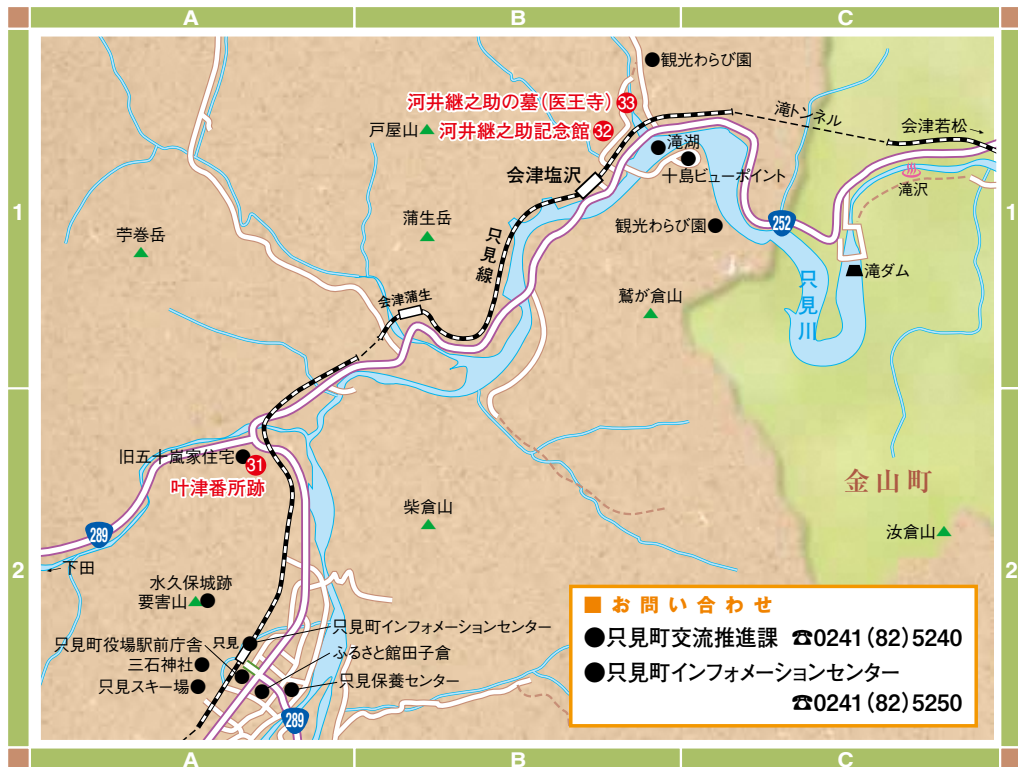
継之助は二人と知り合うと、彼らから外貨や洋式武器を調達した。また、会津藩の家老・梶原平馬にもこの二人を紹介した。ヘンリーは、後に会津藩軍事顧問に任命され、ちょんまげを結い「平松武兵衛」と名乗った。その屋敷跡の場所には説明板が建てられ、往時を偲ぶことができる。

八十里越に時代模様を見届けた地

只見町

〔福島県〕

越後と会津の間に位置し、二つを結んだ交通の要衝。風光明媚な山村も、やがて戦争の渦の中へと巻き込まれていく。只見や塩沢の村人たちは、八十里越を落ちのびてきた、長岡藩士やその家族を出迎え、戦乱の世を共に嘆いた。



只見の見どころ

祭



只見ふるさとの雪まつり

雪深い只見町の最大のイベント。巨大雪像が造られ、祈願花火大会、伝統芸能などのステージが行われる。町民出店の郷土料理や手打ちそばも味わえる。

- 開催日/2月第2土、日曜日
- 会場/只見線広場(JR只見駅前)

観光



三石神社

要害山の麓に位置し、大きな奇岩がご神体として祀られる神社。3つある岩のうち「三の岩」の穴に5円玉を通してこよりを結ぶと縁結びが成就するといわれている。

- 所在地/只見町只見
- 交通/只見駅から徒歩15分

地図 B-1

継之助に思いを馳せ、戊辰史跡をたどる。

越後と会津を結ぶ八十里越の関所

31 旧長谷部家住宅(叶津番所)

地図P22 A-2



旧叶津村の名主・長谷部家が番所の役人を務めた。

江戸時代後期に建築された蔵中門造りの農家住宅。江戸時代には、会津と越後を結ぶ八十里越の口留番所として通行人や物資の監視をおこなっていた。傷を負った河井継之助は、叶津番所周辺が人の出入りが多く病人の休める場所でないことから、ここを通過し、できるだけ静かな只見町自明し清吉宅へ移送された。

- 所在地/只見町叶津
- 休館日/月曜日
- 入館料/無料
- 交通/只見駅停留所からバス4分、叶津下車で徒歩10分



終焉の地に建てられた資料館

32 河井継之助記念館

地図P22 B-1



風光明媚、静かな時が流れる塩沢に、目を引く立派な建物。

継之助が息をひきとった塩沢の矢沢家の場所は、昭和37年、滝ダム建設によって湖底に沈む。記念館には、この終焉の間が移設されているほか、復元されたガトリング砲や、数々のゆかりの品が展示されている。隣は山塩資料館。

- 所在地/只見町塩沢字上/台850-5
- 電話/☎0241-82-2870
- 開館期間/4月下旬から11月中旬まで
- 開館時間/午前10時から午後4時まで
- 休館日/木曜日
- 入館料/大人350円、小・中学生200円
- 交通/会津塩沢駅から徒歩10分



墓前の花、絶えることなく

33 河井継之助の墓(医王寺)

地図P22 B-1



新政府軍の脅威に屈することなく、村人は、遠い国、越後長岡藩の軍事総督を手厚く弔った。

火葬後に残った継之助の細骨を、村人たちが集めて埋葬。当時、新政府軍に見つからぬようにと、文字は刻まず、お墓というよりも、むしろ祠のような形につくりあげた。一世紀以上を経た現在も、継之助の命日、8月16日にはしめやかに墓前祭が営まれる。

- 所在地/只見町大字塩沢地内
- 交通/会津塩沢駅から徒歩15分



難渋の道のり 八十里越



新潟県三条市(旧下田村)から魚沼市田代平を通り只見町(叶津)を結ぶ。鞍掛峠や木ノ峠など難所が続く峠道である。江戸時代、重要な交易路として活躍したが、その道のりは

極めて険しい山道で、坂東坂(6町で1里と数える)で80里あるため、「八十里」と呼ぶようになったといわれる。

一説には、この八十里越の途中に、長岡藩の軍資金や、大砲が隠されたという話もある。

現在、この越境は難しいが、八十里越をたどるようにして県境を横断する、国道289号線の整備が進行中。開通の日が待ち遠しい。

長岡市を起点に、幕末維新をひもとく。

河井継之助の旅 モデルコース

周遊の際は、長岡市内のタクシー・バス会社をご利用ください。
各社でも独自のモデルコースをご用意しています。

- 《タクシー会社(五十音順)》
- 旭タクシー ☎0258(27)5050
 - (株)カンコー ☎0258(35)0035
 - 相互タクシー ☎0258(34)2525
 - 中越交通(株) ☎0258(35)1239
 - つばめタクシー ☎0258(35)0226
 - 長岡タクシー ☎0258(35)1717
 - 三越タクシー ☎0258(35)6161
- 《バス会社》
- 越後交通本社 ☎0258(29)1111

♿トイレがご利用いただけます。

1 長岡 ウォーキングコース

約2時間30分

河井継之助が時に闊歩し、時にたたずみ、
時には跡を追われたみち。
かつての城下町・越後長岡の町並みを、
継之助になった気分で巡ってみる…。



河井継之助の墓 維新の暁鐘(西福寺)



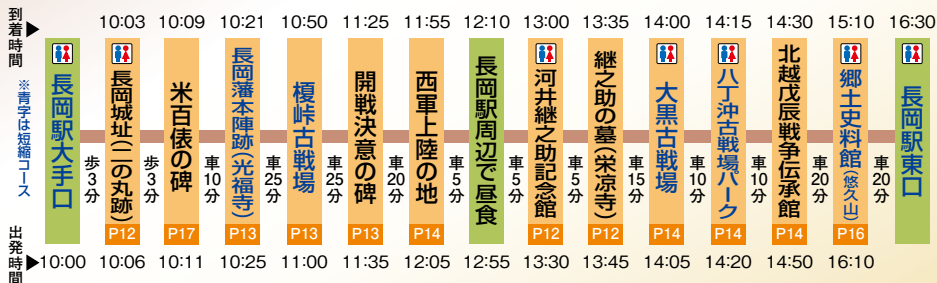
2 長岡 1日コース

約6時間30分

河井継之助を育んだ長岡。
その長岡を愛し、藩の繁栄と生き残りに
人生をかけた継之助。
今からおよそ130年前の偉人の活躍と
激動の歴史を探る1日。



長岡市郷土史料館 八丁沖古戦場パーク



3 長岡・小千谷 1日コース

約8時間45分

かつて継之助が駆けつけた2つのまちを、
じっくりと1日かけて巡りながらその足跡をたどる。
北越戊辰戦争開戦までと開戦後の壮絶な
歴史の糸がひもとかれていく。



朝日山古戦場 慈眼寺



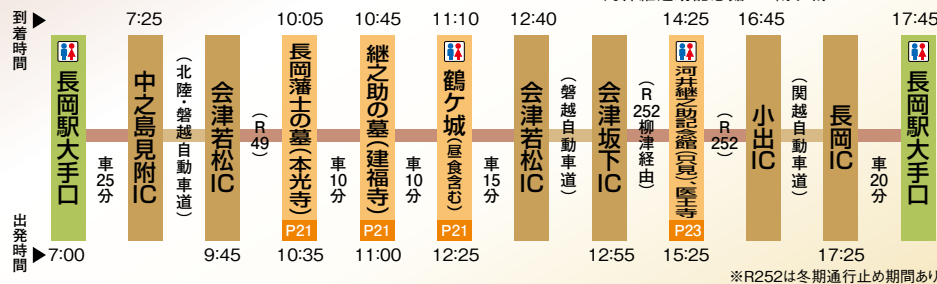
4 会津若松・只見 1日コース

約10時間45分

長岡発着で、福島県まで足を伸ばすコース。
そこは、継之助と数多くの長岡藩士たちの終焉の地。
悲運の結末に切ない気持ちが溢れるが、
長岡藩士たちの「最後の武士」然としたふるまいや
生き方には、感服の至り。



河井継之助記念館 鶴ヶ城



※R252は冬期通行止め期間あり。

5 長岡・小千谷・会津若松・只見 2日コース

3と4を併せ、4つのまちを訪れる。
1日は長岡市内に宿泊し、2日間かけて
河井継之助の生涯を巡るという究極のコース。
じっくりと計画を立てて、挑んでみてはいかが。



建福寺

長岡藩士殉節の碑

1日目 3 コース…長岡市内宿泊…2日目 4 コース